

大手前・森之宮（大阪府立成人病センター跡地）
のまちづくりに向けて〔素案〕

平成22年1月

大手前・森之宮（大阪府立成人病センター跡地）

まちづくり検討会

目 次

1．はじめに	1
2．大阪城周辺地域のポテンシャル	2
3．大手前地区のまちづくりに向けた方向性	
(1) 大手前地区周辺の現況	3
(2) 基本的考え方	4
(3) 経済団体からの提案	5
(4) コンセプトイメージ	6
(5) 導入すべき機能と施設例	7
4．森之宮地区（成人病センター跡地）のまちづくりに向けた方向性	
(1) 森之宮地区周辺の現況	10
(2) 計画地（成人病センター等の跡地）の特性	11
(3) 基本的考え方	12
(4) コンセプトイメージ	13
(5) 導入すべき機能と施設例	14
5．今後の取り組みに向けて	17

【参考資料】

進め方・スケジュール

大手前・森之宮（大阪府立成人病センター跡地）まちづくり検討会
委員・幹事等名簿

1.はじめに

大阪城周辺地域は、大阪のシンボルである大阪城に向かって、開放的なスカイラインを有し、北側は、舟運の八軒家浜をはじめ造幣局、民間美術館等が立地し、東側は、O B Pを中心とするビジネス機能の集積、都市のクールスポットともいべき緑豊かな大阪城公園、さらに、南側には、難波宮をはじめ歴史博物館などを配し、水と緑、歴史、文化に恵まれた都心の中でも良好な環境を有する地域である。

しかしながら、府庁が立地する大手前地区に着目すると、長らく低未利用の広大な土地が眠ったままで、貴重な府民共有の財産が手つかずの状態となっている。一方、森之宮に立地する大阪府立成人病センター（以下「成人病センター」という。）は、昭和39年に建設され、その後増改築されてきたが、施設の老朽化や狭あい化などへの対応のみならず、がん医療の急速な進歩に対応した、がん対策推進のため、建替えが喫緊の課題となっている。

また、人口減少という流れの中で、大阪が活性化していくためには、残された都心の一等地ともいべき大阪城周辺の再生を通して、アジアなどからの集客性を高めていくための仕掛けづくりも必要となっている。

大阪府では、平成21年8月5日「大手前まちづくり検討会」を設置し、大手前のまちづくりに関し、その具体化に向けて、まちづくりのコンセプト、導入すべき機能等について検討を進め、10月に中間とりまとめを行った。

12月からは、本検討会の名称を「大手前・森之宮（大阪府立成人病センター跡地）まちづくり検討会」として体制を強化し、大手前地区への移転後の大阪府立成人病センターの跡地の活用についても検討を進めてきた。

本とりまとめは、これまでの検討会での意見を踏まえ、大手前地区及び森之宮地区（大阪府立成人病センター跡地）のまちづくりの基本的な考え方などをとりまとめたものである。





大手前周辺の立地状況

航空写真出典：グーグルアース

2. 大阪城周辺地域のポテンシャル

大阪城周辺地域は、大阪城天守閣（約 130 万人）をはじめ、難波宮、NHK、大阪歴史博物館（約 31 万人）、民間美術館等の歴史文化施設が立地するとともに、大阪城ホール、造幣局（約 80 万人）の桜の通り抜け、昨年開港した八軒家浜など、歴史と文化の結節点として多くの人々が訪れる高い集客力のある地域である。さらに、水都大阪、近代文化を象徴する中之島地区との連続性を持つ地域である。

（ ）は年間来場者数

また、公立や私立の高校や専門学校などの教育施設が立地し、閑静な雰囲気とあわせ文教地域としての顔を持っているとともに、森之宮の成人病センターをはじめ、国立大阪医療センター、大手前病院など、上町台地周辺では様々な高度医療施設が立地している。

大阪城周辺の一帯は、都心随一のクールスポットとも言える、水と緑の調和のとれた地域として、いつでも自然を感じることのできるみどりの回廊を形成しており、訪れる人々に、安心とやすらぎをもたらすことのできる地域である。

病院などの各種施設と周辺の恵まれた環境が、有機的に連携することにより、新しい魅力を創り出すことのできる地域である。

3 . 大手前地区のまちづくりに向けた方向性

(1) 大手前地区周辺の現況

大手前地区は、上町台地の北端・中之島から大川の東南に位置する。現府庁所在地は、大阪城の旧三の丸あたり、江戸時代は武家屋敷、明治期からは軍用地として利用されてきた。

新庁舎の着工凍結（H8年）後、整備予定地を来庁駐車場などとして暫定利用し、低未利用の状況である。

上町筋側は、大阪城に隣接し、官公庁や学校等が立地する地域である。

谷町筋側は、商業・業務・住居など複合的な土地利用がなされている。

交通の便として、鉄道は、地下鉄谷町線、地下鉄中央線が通る「谷町四丁目駅」と京阪電鉄、地下鉄谷町線が通る「天満橋駅」があり、東西・南北の移動が容易である。梅田や難波といった都心だけでなく、奈良や京都へもアクセスしており、その利便性は高い。

また、道路は南北方向に谷町筋や上町筋が通っていると同時に、中央大通の上に通る阪神高速 13 号線東大阪線法円坂出入口からの車でのアクセスに優れている。

【計画地の特性】

所在地 大阪市中央区大手前

活用面積 約 3.2 ヘクタール

交通 地下鉄谷町線、中央線「谷町四丁目駅」から徒歩約 5 ～ 10 分

地下鉄谷町線、京阪電鉄「天満橋駅」から徒歩約 10 分

バス路線もあり交通の便に優れている。

都市計画等

商業地域（容積率は 600%、建ぺい率 80%）

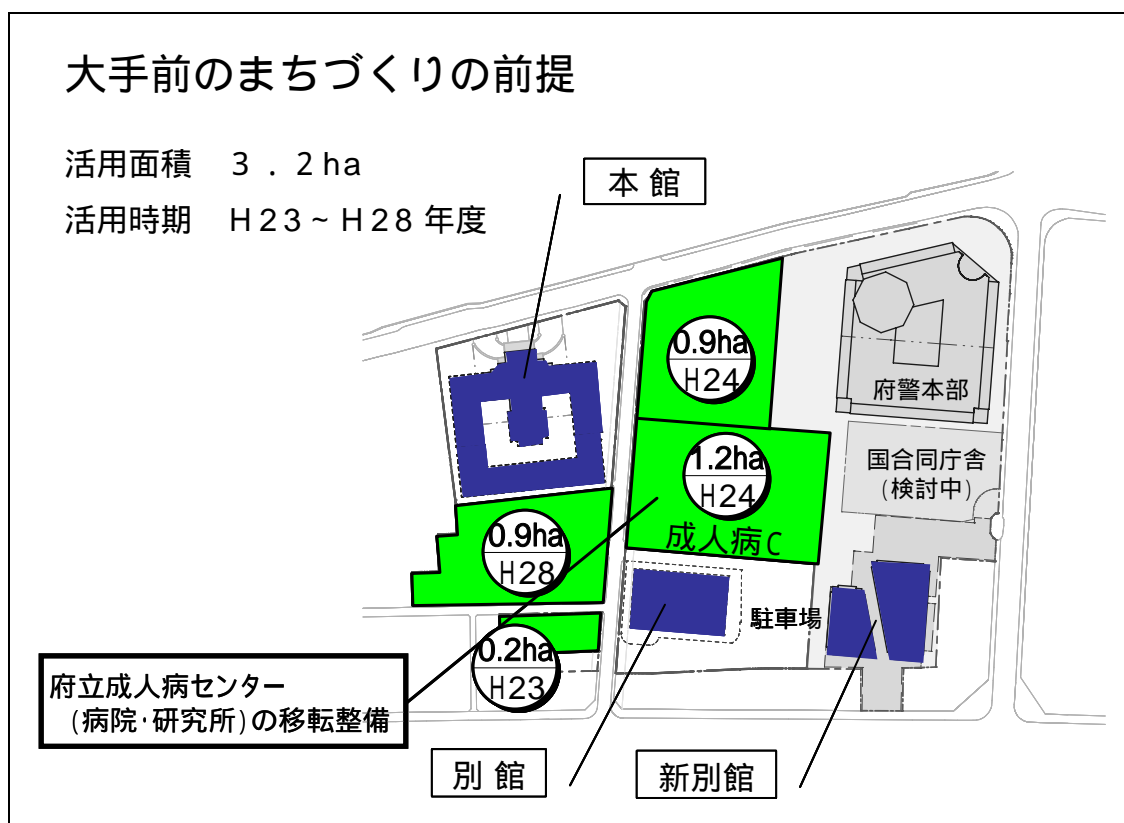
(2) 基本的考え方

大手前のまちづくりは、この地区の低未利用地の活用策を起爆剤として、大阪城周辺地域の活性化につながるリーディングプロジェクトと位置づけられるものであり、それに相応しい構想とすることが必要である。

かつて、大手前地区の隣接地では、難波宮史跡公園の整備のため、市立体育館を現NHKの立地場所から大阪港近くの朝潮橋に、NHKを隣接地から現在地に、それぞれ移転させ、この地域を整備した経験を持つ。

今回、森之宮にある成人病センターについては、府のがん対策を推進するため、早期の建替えにより同センターの機能強化を図る必要があることから、大手前地区への移転建替えを進めることとしており、このため、本検討会においては、成人病センターが大手前地区に移転することを前提とした。

これらはいずれも、既存の資産の更新を期に、大胆にリロケーション（再配置）することで、質の高い都市再生、都市拠点形成へとつなげていくということを基本姿勢として取り組んでいるものである。



(3) 経済団体からの提案

検討会においては、大手前まちづくりの前提条件及び周辺地域のポテンシャルを踏まえ、経済団体から、「医療拠点を核としたまちづくり」「医療と歴史・文化・観光の複合ゾーン」という二つの提案が出された。

それぞれの提案は、方向性が異なるものではなく、まちづくりのエリア、ポテンシャル、コンセプト、導入機能などについて、多くの共通点を有する。

提案 . 医療拠点を核としたまちづくり

「医療・健康」をテーマに絞ったまちづくりを進める。がんをはじめとする成人病等への世界最先端医療の提供と研究のための拠点（病院、研究開発施設・放射線治療施設など）の集積・ネットワーク化を図るとともに、予防医学、健康づくりの観点から、ヘルスケアサービス、居住・宿泊（医療機関利用者も利用できるホテル、介護サービス付きマンションなど）など関連産業とも連携したゾーンとする。あわせて歴史や文化、教育など地域の豊富な蓄積を活用していく。（医療関係の資格取得支援施設など）

提案 . 医療と歴史・文化・観光の複合ゾーン

「医療」「歴史・文化」「観光」の複合的なゾーンとしてまちづくりを進める。医療では、提案と同様に世界最先端の医療提供拠点として成人病センターを核とした医療・健康づくり関連施設の集積・ネットワーク化を図る。歴史・文化・観光では、大阪城、難波宮、歴史博物館など大阪の歴史を体感できるスポットや周辺文化施設をつないで、歴史・文化周遊ゾーンとして整備するとともに、医療観光（メディカルツーリズムなど）も含め内外から観光客を惹きつけ、滞在させるしかけづくりを進める。（長期滞在できるリゾート的な宿泊施設など）

「メディカルツーリズム」とは

「観光」と「医療サービス」をセットにしたパッケージツアー。ホテルなみの施設とサービスに加え、高度な医療技術も提供するもの。

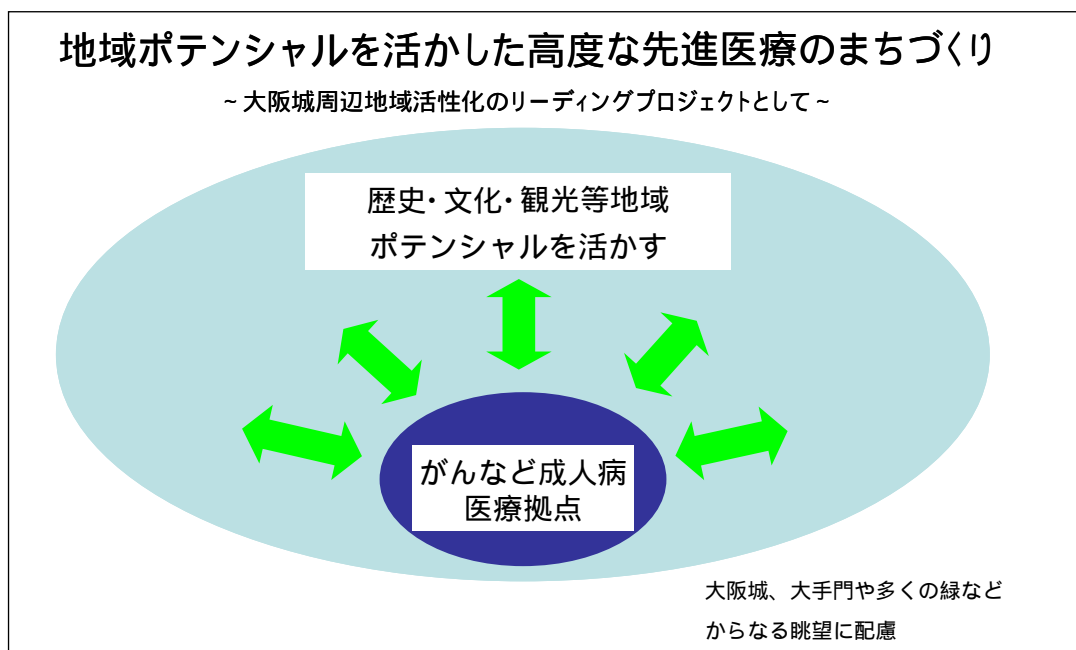
以上の提案については、次の共通点が挙げられる。

大阪城周辺地域のポテンシャルを活かし、さらに活性化につながるリーディングプロジェクトとして位置づけて取り組むこと。

成人病センターが有するがん医療機能など、先端医療機能の集積をめざすこと。

歴史・文化・観光等の資源を活かし、予防医学や健康増進などを含めた医療産業の集積をめざすこと。

(4) コンセプトイメージ

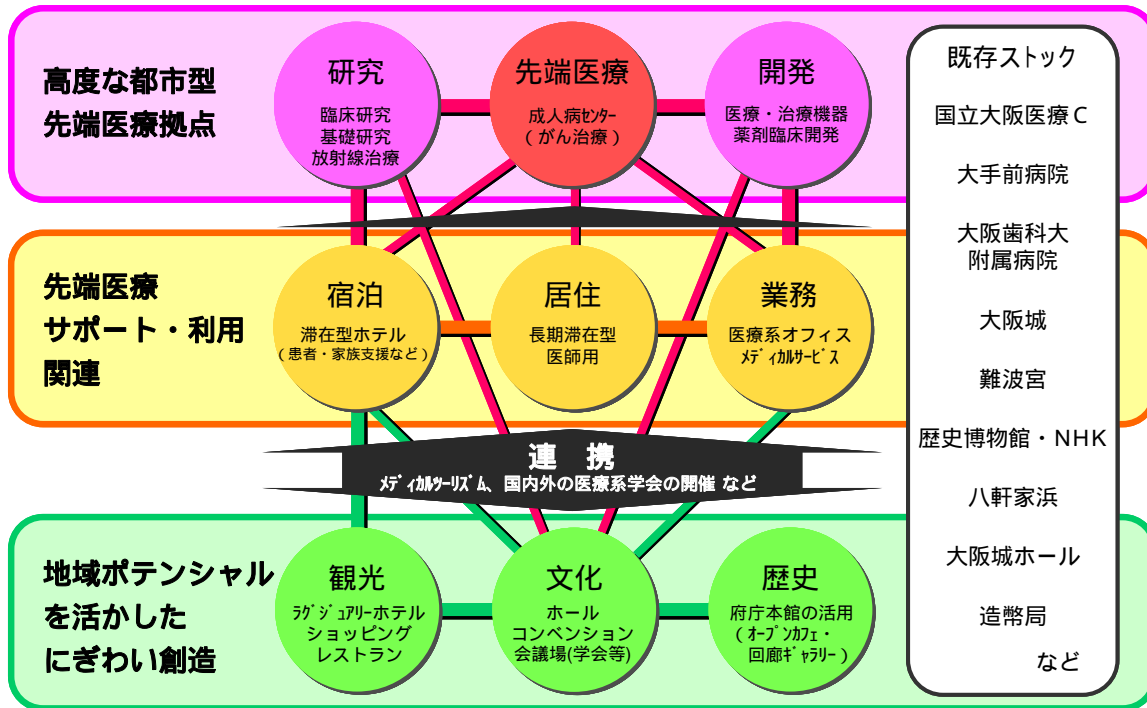


検討会の提案・意見を踏まえ、まちのイメージとしては、成人病センターと医療関連施設の先端医療を核として、歴史・文化・緑の多い都心の一等地という特性を活かし都心のオアシスとした、次のようなまちづくりが考えられる。

- ・ がんをはじめ成人病に関する「先端医療拠点」
- ・ 緑豊かな環境の中で暮らし、安心して高度医療や介護サービスなどを受けられるホスピタリティの高い「医療を中心に健康・安心の暮らしを支援するまち」
- ・ 関西国際空港へのアクセスを活かし、がん治療等の先端医療施設の充実により先端医療を受けながら大阪を楽しめる「歴史、文化、恵まれた自然環境などを付加価値に先端医療を中心とした医療と観光のまち」
- ・ 歴史・文化・観光等の地域ポテンシャルを活かした、アジアをはじめとする国内外からの観光客の誘致

(5) 導入すべき機能と施設例

都市型先端医療拠点を核としてアジアをはじめとする国内外から人が集う



大手前地区に導入すべき機能及び施設を、次の通り想定した。

機能1 がんをはじめとした成人病に関する先端医療拠点 (成人病医療ハブ) 機能

- ・ 成人病センターと医療関連施設を中核として、先端医療機能の集積（国立大阪医療センターや大手前病院など）とあいまって、先端的な医療サービスを提供するとともに、臨床研究を中心とする研究の推進を図る。
- ・ 医療関連施設としては、医療関連企業などの放射線治療等施設、治療・医療機器開発施設などを想定しており、成人病センターなどの医療機関と連携することで、先端的な医療技術の開発や新たな診断・治療法の実用化の促進などが期待できる。
- ・ また、患者の視点からも、大阪城周辺の緑豊かな環境の中で高度医療が受けられるホスピタリティの高い療養環境の実現を図る。

(施設例)

- ・ 高度な先端医療技術を提供する病院及び研究開発等施設
- ・ 先端の医療が受けられる拠点として、放射線治療等施設、治療・医療機器開発施設など

機能2 次世代医療システム産業のコアなどの先端医療を支える関連産業育成機能

- ・ 先端医療を促進するための民間サービス産業、先端医療機能を支える周辺産業（専門教育機関を含む）を創出・育成など
- 地域ポテンシャルを活かしたサービス産業

(施設例)

- ・ 先端医療を支える関連産業（医療システム支援など）のオフィス
- ・ 先端医療を支える専門職を育成する教育施設
- ・ 先端医療を支えるメディカルサービス（薬局等）
- ・ 宿泊滞在施設（国内外から訪れる患者・家族にも対応）
- ・ 長期滞在型医療・介護サービス付き居住施設など

機能3 歴史・文化・観光等の地域ポテンシャルを活かした賑わい創造機能

- ・ アジアをはじめとする国内外からの観光客の誘致
- ・ 豊富な歴史、文化の蓄積を生かした周遊空間づくり
- ・ 水や緑の豊かさと医療施設の集積を活かした医療等サービス

(施設例)

- ・ 歴史学習施設、文化・芸術施設など
 - * 大阪城や大阪歴史博物館、難波宮などの歴史スポットをつなぐネットワークなどを活用した文化施設（ホールやギャラリーなど）など
- ・ コンベンション・会議場（学会等開催）
- ・ 商業施設
- ・ 宿泊滞在施設（国内外から訪れる観光客に対応、観光とヘルスケアをパッケージにしたメディカルツーリズムなど）

(留意点)

- ・ 大手前地区に先端医療拠点機能の導入を検討するにあたっては、医薬品・医療機器を中心とした北大阪バイオクラスターや、再生医療等を中心とした神戸医療産業都市をはじめとしたバイオクラスター拠点の形成に向けた取り組みが進んでいることから、関西という広域的な視点で連携を考えることが必要である。
- ・ 人口減少期を迎え、都市活力の持続性の観点からアジアをはじめとする内外からの集客性を高めることも大きな課題になっている。

大手前地区への機能導入や施設誘致にあたっては、この地域がアジアの中で存在感を示すようにするため、既成の制度等にとらわれない大胆な発想で拠点形成、まちづくりを推進するとともに、周辺への影響に配慮しつつ地域の活性化や人々が行き交い、にぎわうまちづくりにも繋げることが必要である。
- ・ 施設配置にあたっては、大阪城に面する上町筋沿いの豊かな緑と連続した、良好な都市景観の形成と、谷町筋側から見た大阪城の景観、特に大手通を軸とした景観形成、すなわち大手門、大阪城、そして多くの緑などからなる眺望に配慮したまちづくりを進めることで、大手前エリアの付加価値を高めることになる。

また、先端医療拠点としてのまちづくりにおいて、研究などに携わるなどそこに働く人々にとっても、都市景観に配慮することは、新たな発想や研究をする環境としても、意義があるものと考えられる。

4. 森之宮地区(成人病センター跡地)のまちづくりに向けた方向性

(1) 森之宮地区周辺の現況

大阪城に隣接した森之宮地区は、明治期以降は大阪砲兵工廠とその関係工場などで活況を呈した歴史を有する。戦後は、都心隣接の緑の多い居住地として、日本住宅公団（現：独立行政法人都市再生機構）の森之宮団地の開発を中心に発展してきた。

また、近年は、高度成長期の家屋の老朽化とともに、住民の高齢化が進んでおり、昭和39年に建築された成人病センターや昭和34年に建築された府立公衆衛生研究所など公共施設の老朽化も進んでいる。

このうち、成人病センターについては、早期の建替えにより同センターの機能強化を図る必要があることから、大手前地区への移転建替えを進めることとしている。

森之宮地区は、上町台地の北東端に位置し、大阪市都市部と周辺住居地の接点になる場所にある。交通の便としては鉄道では、JR環状線、地下鉄中央線、長堀鶴見緑地線が通り、「森ノ宮駅」を拠点に東西・南北への移動が容易であり、梅田や難波といった都心や他のエリアへのアクセスの利便性は高い。

また、道路は南北方向に玉造筋、東西方向に中央大通、その上を阪神高速13号東大阪線が高架となっており、森之宮出入口からの車でのアクセスにも優れている。

森之宮地区は、前述のとおり日本の面的住宅開発の先進事例である森之宮団地を中心にまちづくりが進められ、2700戸約5000人が居住している。森之宮地区の東・南側では一戸建て、集合住宅、小規模工場が混在し、西側、森ノ宮駅周辺では、一部に商業・業務施設の立地が見られるが十分とは言えない。

同地区のある東成区の居住人口は約8万人、平成17年の国勢調査では高齢化率は20パーセントを超えており、さらなる高齢者の増加が見込まれている。

また、同地区周辺では住宅の老朽化が進んでおり、住環境が課題になっている。一方、都心では少ない大阪城公園の緑の豊かさとアクセスの良さを売りにして、高層マンション等の建設が活発化しており、都心回帰ニーズの



受け皿になっている。

このように、緑が多く、都心に隣接した居住地、生活の場としての高いポテンシャルのある地域といえる。

森之宮地区周辺は、保健衛生の科学的・技術的中核機関として新型インフルエンザをはじめ感染症や生活環境の検査、調査研究を行う府立公衆衛生研究所、がんの一次予防対策や検診を行う大阪がん予防検診センター、がんの画像診断法である PET 検査を専門行う森之宮クリニック、急性期医療とリハビリテーション医療を特色とする病院などが立地しており、健康や予防を主眼とした地域医療のまちづくりを目指すポテンシャルがある。

当地区は、平成 4 年に「森之宮健康ゾーン」として拠点施設の整備を府として進めていくこととされ、平成 13 年には健康づくりに関する調査研究や健康診査などを行う拠点施設、府立健康科学センターが新たに開設されている。医療健康人材の教育機関として、学校法人森ノ宮医療学園があり、専門学校、付属診療所なども周辺に立地している。（同法人の大学は大阪市住之江区に立地）

（２）計画地（成人病センター等の跡地）の特性

本まちづくりの計画地は、成人病センター（病院・研究所）の大手前地区への移転建て替え等（平成 27 年度を予定）により生じる跡地である。

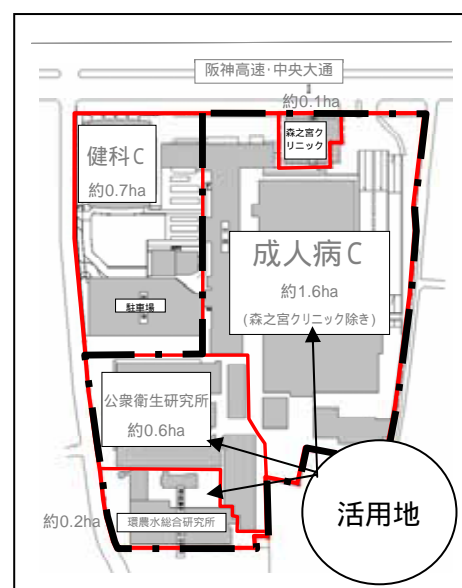
<所在地> 大阪市東成区中道

<活用面積> 約 2.4 ヘクタール

<交通> JR 環状線、地下鉄中央線・長堀鶴見緑地線
「森ノ宮駅」から徒歩 3 分、中央大通にも面しており、バス路線でもあり交通の便に優れている。

<都市計画等>

- ・道路形状：北側は中央大通に面しており、その上には阪神高速道路が高架になっている。西側の通行道路は幅員約 8～10 メートル、東側は 5 メートル未満南東付近に狭隘な一方通行がある。
- ・容積率/建ぺい率：
中央大通沿道部分は商業地域（600%/80%）
大部分は準工業地域（300%/60%）



< 施設の整備方針 >

- ・成人病センター（病院・研究所）の大手前地区への移転
- ・健康科学センター・がん予防検診センター・公衆衛生研究所(検討中)の健康科学センタービルへの集約化
- ・環境農林水産総合研究所については、現在あり方を検討中であり、その状況を見極めながら森之宮まちづくりのゾーンに含めて検討を進める。

森之宮地区は、このような土地の特性や周辺の立地施設等を踏まえ、まちづくりを検討していく必要がある。

(3) 基本的考え方

(検討会・幹事会での意見)

検討会では、森之宮地区のポテンシャルを生かしていくという観点から、議論がなされ、高齢社会が到来する中で、ますますニーズが高まることが予測されている「健康や医療」をまちづくりのコンセプトにするべきという意見が中心となった。

また、地域の居住と医療が連携する機能の導入を進めることが提案された。

具体的な立地を進める施設としては、スポーツ関連施設、リハビリ病院、健康食品等の販売・相談機能など健康医療関連のほか、大学・専門学校などの人材育成施設の誘致の提案があった。

そのほか、住宅開発として居住と医療とが連携した先行事例として、都市再生機構が中心になってまちづくりを行った「桃坂コンフォガーデン」(大阪市天王寺区)が紹介され、民間活力の導入が見込める住宅や商業施設などが一体化した多機能複合型施設が適当であり、地域との連携、貢献といったまちづくりの開発が必要であるといった意見

施設配置にあたっては、大阪城公園の豊かな緑と連続した、緑や公共空間を活かしたまちづくりを進めていくべきであるという意見

成人病センターの移転跡地の利用を中心に、まちづくりの方向性を示しているが、計画地の活用策にとどまらず、大手前地区をはじめ他の大阪城周辺地域との連携を図りながら、全体として一貫したリーディングプロジェクトとして検討していく必要があるといった意見があった。

(検討会・幹事会での意見、提案を踏まえた森之宮地区のまちづくりの基本的な考え方)

大手前地区を「地域のポテンシャルを活かした高度な先進医療のまちづくり」としたのに対して、森之宮のまちづくりは、森ノ宮駅に隣接しているなど交通利便性の高い立地特性を踏まえつつ、健康科学センターや森之宮クリ

ニックなど既存施設との相互連携を図りながら、「地域医療と健康」をコンセプトとしたまちづくりを行い、生活の利便性を向上させることにより、多くの人が集い、賑わいのあるまちづくりをめざすため、下記のような核となる機能を中心とした複合的なまちづくりを進めることを基本とする。

その一つとして、医療機関（またはメディカルモールを形成）・健康関連産業等の連携によるまちづくりが考えられる。

地域に根ざした診療機能やメディカルモールを形成し、医療水準の向上を図ることにより健康と予防を主眼とした地域密着型の医療のまちづくりを目指すものである。

二つ目として、医療・健康分野における教育施設との連携によるまちづくりであり、若者が集まる魅力的なまちを形成し、あわせて、研究機能や人材養成機能をあわせもったまちづくりを目指すものである。

これらが中心となり、都心回帰の中高齢者層に豊かなライフスタイルを提供し高齢者に対するケアを一体的に行うまちを形成することや、好立地を活かし、子育て期の若年世代にも住みやすい居住の場を提供するなど、若年世代から中高齢者層までの多世代交流が図れるまちを形成していくことも考えられる。

このため、商業施設、保育施設など生活上必要となる利便施設の充実とともに、人が集まり、にぎわいを生み出すために、健康になるまちをテーマに関連する施設や飲食店などの集客施設の誘致・導入を図っていくべきである。

以上、「地域医療と健康」をコンセプトに、既存の森之宮クリニック、健康科学センターなどと連携しつつ、民間活力の導入によるまちづくりを進めていくことが基本コンセプトとして適当であると考えられる。

(4) コンセプトイメージ

生活利便性の向上

- ・地域の活性化、にぎわい

ポテンシャルの活用

- ・健康科学センター、森之宮クリニック等との連携

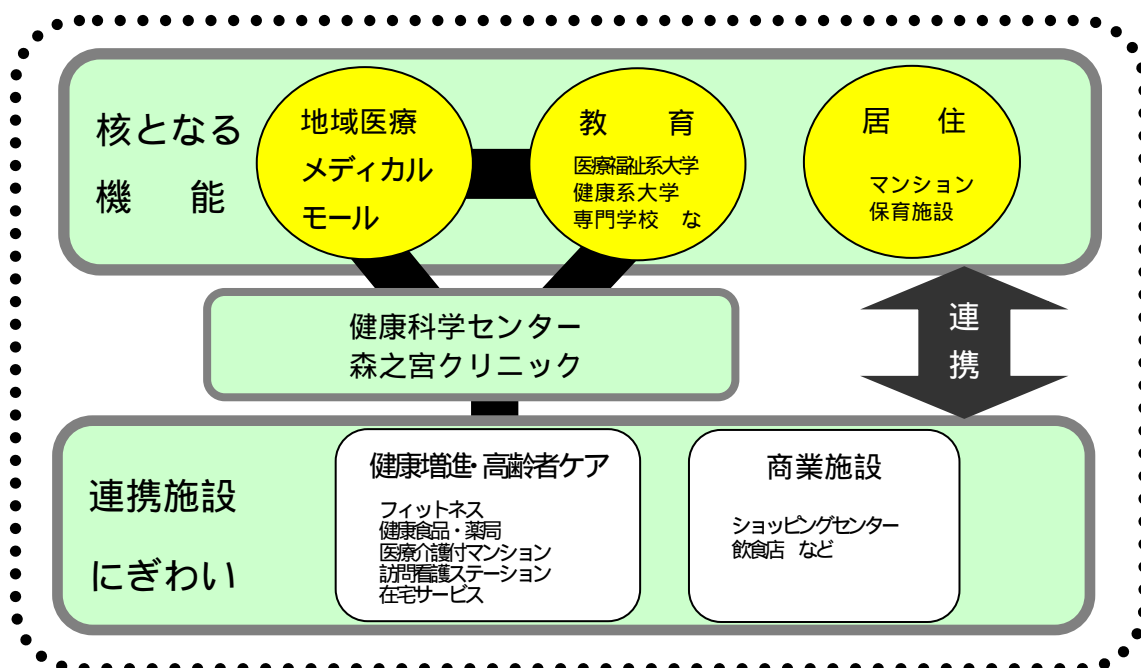
地域医療への貢献

- ・健康と予防、医療水準の向上

基本コンセプト

「地域医療・健康をコンセプトに、健康科学センターや森之宮クリニックなど既存施設との連携を図りつつ、核となる機能を中心とした複合的な賑わいのあるまちづくり」

(5) 導入すべき機能と施設例



基本コンセプトを前提に、森之宮地区に導入すべき機能は以下のとおりである。

医療機関（またはメディカルモールの形成）・健康関連産業等との連携によるまちづくり

健康科学センターや森之宮クリニックなど既存施設の機能を活かしながら、地域に根ざした診療機能やメディカルモールを形成し、健康や予防のサポートを行う。

また、スポーツジムなどの健康関連企業の誘致や健康食品・薬品などの販売など、きめ細かな対応が可能なサービス、相談ができる拠点としても形成を図っていく。

(高齢者に対するケアを一体的に支援するモデルタウン)

あわせて、豊かな住環境を提供するための施設として、都心部での緑の多さを生かしながら、高齢者に対するケアを行い、安心して暮らせる「医療」「介護」「住宅」が一体化したモデルタウンとしての住宅整備も考えら

れる。

健康科学センター、周辺医療機関との提携によるメディカルサービス、民間事業者によるケアサービス、見守りサービスなど安心して生活できる地域ネットワークを構築するとともに、商業施設など日々の暮らしに必要な利便施設を配置する。

医療・健康・福祉系教育機関と連携したまちづくり

次世代を担う医療・健康・福祉関連の人材養成を行う教育施設を核としたまちづくりを行い、あわせて教育施設と連携した研究機関や医療関連産業などの集積によるまちづくりを進めるなど、若い世代を育成する拠点形成をめざす。

実習先の確保など地区内の医療健康関係機関との連携を図るとともに、健康づくりについて社会人（府民）が学べる開かれた教育拠点としても活用する。

多様な世代間交流を図る住環境との連携

多様な世代間の交流が促進できるように、都心居住を望む若年世代向けの住環境（住宅、保育施設）を整備する。

このため、多機能複合型のまちづくりを形成する

< 具体的な施設の例 >

(地域医療)

- ・ 医療機関、メディカルモール
- ・ 薬局、医療相談施設

(教育)

- ・ 医療・看護・福祉系、スポーツ科学・健康系大学・専修学校、社会人キャンパス(健康系部)

(居住)

- ・ マンション、保育施設

(健康増進・高齢者ケア)

- ・ デイケアセンター、健康増進施設（フィットネスなど）
- ・ 健康食品・薬品施設
- ・ 健康産業モール(販売、展示場：笑いや人体などをコンセプト)
- ・ 健康科学センターと大学の共同研究による連携施設

- ・ 高齢者支援施設(シルバーハウス、訪問看護ステーション、在宅サービス、医療介護付マンション)

(商業施設)

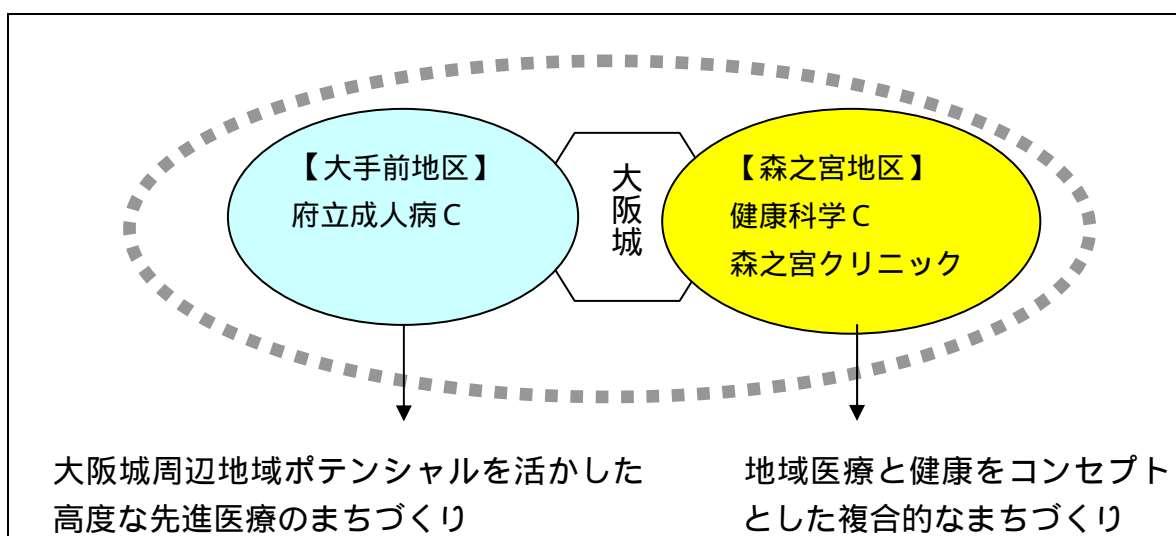
- ・ ショッピングセンター、スーパーマーケット、コンビニ、飲食店など

(留意点)

- ・ 計画地周辺の道路は一部狭隘であるなど、今後高度利用を図る場合は、インフラ改善等の工夫が必要である。
- ・ 将来の社会状況等の変化により、土地利用に変更が生じた場合についても、それに応じた転換が図れるよう検討しておく必要がある
- ・ まちづくりを進めていく上で、緑や省エネ・アメニティ・誰もが利用しやすいバリアフリーなどにも配慮した視点を踏まえ対応していく必要がある。

5. 今後の取り組みに向けて

今回のとりまとめでは、大手前地区については「地域ポテンシャルを活かした高度先進医療のまちづくり」、森之宮地区（成人病センター跡地）については「地域医療・健康をコンセプトに、既存施設との連携を図りつつ、核となる機能を中心とした複合的な賑わいのあるまちづくり」を提案するとともに、導入すべき機能や施設例を示した。



今後は、まちづくりの具体化に向け、想定している機能と施設例の導入・立地可能性について、フィージビリティスタディ（事業可能性調査）に資する情報収集（企業ヒアリングなど）を行っていく。

また、大手前地区及び森之宮地区（成人病センター跡地）の活用策にとどまらず、大阪城周辺地域のポテンシャルを活かし、まちづくりを大阪の活性化につながるリーディングプロジェクトとして位置づけ、その広がりについては、まちづくりの進展にあわせて、関係者からなる新たな検討の場を設けることが望ましい。

まちづくりは20年、30年先の都市像をイメージして進めるものである。特に大手前地区は、アジアをはじめとする広域的な集客拠点としてのポテンシャルを高める観点から、アジアに存在感を示していくことが求められる。

そのためにも、今後、府市連携のもと、より具体的なプランを検討する場合は、景観に配慮しながら、次代に継承できる風格と格調高いまちづくりを念頭において取り組むことを求める。

〔進め方・スケジュール〕

H21年度 土地利用構想の議論

大手前・森之宮(大阪府立成人病センター跡地)エリアについて、大阪市等と連携するとともに、民間の視点からの アイデアや意見を求めながら、土地利用イメージを具体化していく

「大手前・森之宮(大阪府立成人病センター跡地)まちづくり検討会」

平成21年8月5日設置(平成21年12月14日名称等変更)

構成：大阪府・大阪市・経済3団体、都市再生機構、医療関係(医薬基盤研究所、大阪大学)

開催状況

平成21年 8月 5日 第1回検討会

平成21年10月 8日 第1回幹事会

平成21年 9月15日 第2回検討会

平成21年10月14日 第2回幹事会

平成21年12月14日 第3回検討会

平成21年12月24日 第3回幹事会

平成22年 1月27日 第4回検討会

平成22年 1月20日 第4回幹事会

【大手前地区】

フィージビリティスタディ(事業可能性調査)に資する情報収集(企業ヒアリングなど)

H22年度 土地利用基本計画の策定

- ・コンセプト、導入機能
- ・民間土地利用の市場調査
- ・コンペ要綱作成

H23年度～

大手前地区事業コンペ開始

【森之宮地区(成人病C跡地)】

H22年度 土地利用基本計画の策定

- ・コンセプト、導入機能
- ・フィージビリティスタディ(事業可能性調査)に資する情報収集(企業ヒアリングなど)

H27年度以降

森之宮地区(大阪府立成人病センター跡地)事業コンペ

大手前・森之宮（大阪府立成人病センター跡地）まちづくり検討会

委員・幹事等名簿

委 員

大竹 伸一（社団法人関西経済同友会常任幹事）
奥田 真弥（社団法人関西経済連合会専務理事）
北村 英和（大阪市計画調整局長）
木村 慎作（大阪府副知事）
佐藤 茂雄（大阪商工会議所副会頭）
（任期 H21年8月5日～12月13日まで）
小嶋 淳司（大阪商工会議所副会頭）
（任期 H21年12月14日～）
斉藤 親（独立行政法人都市再生機構西日本支社長）
山西 弘一（独立行政法人医薬基盤研究所理事長）

幹 事

川田 均（大阪市政策企画室企画部施策重点化担当部長）
神田 彰（社団法人関西経済連合会地域連携部長北梅田プロジェクト推進室長）
児玉 達樹（大阪商工会議所総務広報部長）
小幡 斉（大阪府総務部副理事）
佐藤 道彦（大阪市計画調整局計画部長）
高山 佳洋（大阪府医療監）
田中 啓介（独立行政法人都市再生機構西日本支社都市再生業務部担当部長）
春名 克俊（大阪府政策企画部企画室課長（事業調整担当））
松尾 康弘（社団法人関西経済同友会事務局次長兼企画調査部長）
吉川 秀樹（大阪大学医学部附属病院副病院長・同医学部教授）

オブザーバー

伊東 昌明（近畿地方整備局営繕部営繕調査官）
増永 賢一（近畿財務局管財部次長）